

# 「うべ・みらい共創セミナー」の開催報告(概要)

## 1 日時

令和3年(2021年)10月13日(水) 18:30~20:30

## 2 場所

うべスタートアップ (うべ産業共創イノベーションセンター 志)

## 3 プログラム(オンライン開催)

### (1) 講演Ⅰ「暮らし続けられるまちづくり～出生率からみる地域形成～」

(公財) 中国地域創造研究センター・主席研究員

兼 広島大学大学院人間社会科学研究科 客員教授 柴田 浩喜さん

### (2) 講演Ⅱ「宇部市の新しいまちづくり」

宇部市総合戦略局 次長 庄賀 信彦

まち

### (3) パネルディスカッション「宇部の未来図～みんなで創る わたしたちの宇部」

パネリスト：藤井 茉莉さん (宇部青年会議所・理事長)

上田 結月さん (宇部工業高等専門学校・電気工学科3年)

柴田 浩喜さん (中国地域創造研究センター・主席研究員)

コーディネーター：脇 和也さん (宇部市総合計画審議会・会長)

#### 【講演Ⅰ】暮らし続けられるまちづくり～出生率からみる地域形成～

- ・出生率に焦点を当て、宇部市の状況や地域づくりとの関連について話をしたい。
- ・地域の持続性を「その地で暮らしたいと思う人が、ずっと暮らし続けられること」とすると、人口が減って病院や学校、コミュニティが維持できなくなったり、そこで暮らしたいと思う人が少なくなったりすると、地域が持続的でなくなる。このため、人口減少の要因の一つである少子化は地域の持続性の議論でもある。
- ・「少子化」とは、その地域の出生率が人口置換水準の2.07を継続的に下回っている状態のことをいう。
- ・宇部市の2013-2017年の期間における出生率は1.56で、全国平均の1.43よりも高く、山口県の1.56と同水準であるものの、人口維持に必要な2.07を下回っている。また、国民の希望出生率は1.8であり、それからみても決して高い数値ではない。
- ・出生率の問題に取り組む上で重要なことは、地域特性によって要因と対策が異なる。出生率の上昇を図るには、地域の実情を把握し、地域の皆で取り組む必要がある。
- ・このため、自治体では各部門の取組が少子化にどのように関わっているか知り、それぞれが主体的に取り組む必要がある。また、企業や住民組織、住民一人一人にも、地域の出生率上昇に関わりがあることを知っていただき、皆が参加し、連携して取り組むことが少子化問題の解決のカギとなる。
- ・合計特殊出生率は、結婚している女性が多いほど、また、夫婦から生まれる子ども数が多いほど上昇するが、20歳代と30歳代の結婚に影響を及ぼす地域特性、あるいは第1子、第2子、第3子の出生に影響を及ぼす地域特性は異なるため、これらを分けて考えることが重要である。
- ・宇部市の出生率が全国に比べいくらか高いのは、20歳代女性の有配偶率が全国を上回っていることが一つ要因である。一方で、30歳代の結婚は全国と同程度に低く課題として捉える必要がある。



- ・宇部市の第1子の有配偶出生率は、全国を下回り、第2子は全国と同程度に低い。第1子の有配偶出生率が低いことは、宇部市に住む結婚した女性は第1子をもうけないということではなく、結婚意欲のある女性や結婚時に宇部市から女性が転出するため、15-49歳の有配偶女性に対して第1子の割合が小さく表れている可能性がある。一方で、第3子有配偶出生率は高く、宇部市に定住している有配偶女性は第3子までもうける割合が全国よりも高いとみられる。
- ・これらのことから、宇部市は、第3子を得られるような子育て環境はあるものの、結婚意欲がある若年層や若い夫婦に選ばれていない面もあると考えられる。これが出生率は定住問題でもあると言われる理由である。
- ・出生率に影響を与えている地域特性のうち、まず産業・経済をみると、所得は、都道府県比較では所得が高いと女性の有配偶率を低めるように働き、市町村比較では所得が高いほど女性の有配偶率を高めるよう影響を及ぼしている。これらのデータから、所得は高過ぎても低過ぎても、出生率にはマイナスになるという見方ができる。そうすると、飛びぬけて高い所得でなくても、安定した所得を生み出すことができる中堅・中小企業の層が厚いことが出生率には重要と考えることができる。宇部市は、一人当たり所得は県内で高い方であり、大企業だけでなく中堅企業の立地が出生率にプラスに働いているのではない。
- ・男性の就業者に占める非正規雇用の割合は、女性の有配偶率に対してマイナスに影響するが、所得や就業形態の出生率に対する影響の背後には、所得を得ることや働き方に関する男女の役割分担意識が作用している。
- ・産業構造は就業者性比を通じて有配偶率に影響し、男女のどちらに偏っても出生率に対してはマイナスである。一つ一つの産業は就業者が男女のどちらかに偏っていることが多いため、産業構造が多様であることは出生率に対してプラスに作用する。ただ、長期的にも産業構造を多様化することは難しいので、そもそもの男産業・女産業、男職場・女職場を解消していくことが大切である。
- ・宇部市の企業に、産業・経済、企業経営、働き方がどのように出生率に影響しているか知ってもらい、産業の多様化を図りつつ、男女両方の多様な人材の活用、雇用の正規化、ワークライフバランス等の従業員幸福を重視する経営に対して、地域が連携して取り組むことが重要である。
- ・地域コミュニティにおいては、一般には、住民のつながりが強い地域ほど、第2子や第3子の出生率が高くなる傾向がみられる。
- ・岡山県が実施した高校生の意識調査を紹介する。高校生のほとんどは自分自身の結婚や子育て、就職を経験していないため、その価値観に影響を及ぼすのは、主に家族、コミュニティ、学校である。このため、高校生を調べると地域コミュニティのことがよくわかる。
- ・調査結果によると、地域コミュニティとのつながりが強い生徒ほど、過去に小さい子どもとふれ合う機会が多く、そうした者は子どもを持つことに対して肯定的である。さらに、肯定的な意識を持っているほど子どもを持つ意欲が強いことが明らかである。例えば、「小さい子どもを持つ夫婦を見ると幸せそうと思う」生徒では、理想の子ども数を3人とする者が増える。
- ・岡山県の調査では子育て世帯に対して子育ての幸福感を尋ねている。調査結果では、子育ての幸福感と理想の子ども数の間には強い相関がみられた。調査では、親が子育てで幸福感を感じるのは、子どもの成長を感じる時、子どもとふれ合うときなどである。子育ての負担を軽減することも重要であるが、子育て世帯が幸福感を感じることができる地域コミュニティも重要と考える。「□□ちゃん、いつの間にか大きくなったね」の



声掛け一つでも違ってくるのではないかと。宇部市においても、まず、高校生や子育て世帯の調査結果が示すように、地域コミュニティが出生率に影響しているということを知ってもらうことが重要である。

- ・今回は、時間が限られており、地域特性が出生率に影響を及ぼす例として、産業・経済と地域コミュニティを取り上げた。実際は、もっと多くの地域特性が出生率に影響している。そして、出生率に影響する要因数が多いということは、この中に宇部市の企業や住民の方が自分のこととして捉えられることが一つは見つかる可能性があることを示している。
- ・少子化問題に焦点をしばっても、地域の問題解決は、地域のあらゆる主体が自分のこととして取り組み（ユニバーサリティ）、連携すること（アライアンス）が必要である。
- ・このためには、出生率が高い水準に維持される「変化を遂げた未来」を共通目標として設定すること、そして、この実現に対して「課題があることの共通認識（アジェンダ）」と「自分ができることに責任を持つこと（コミットメント）」ができるかどうかの鍵になると考えられる。
- ・このことは、宇部市がめざす共創のまちづくり、共存同栄の精神にもつながると思う。

## 【パネルディスカッション】宇部の未来図～みんなで創る わたしたちの宇部

### 【テーマ① これまでのまちづくりへの関わりについて】

#### ●藤井さん

- ・団体(宇部青年会議所)として、「明るい豊かな社会の実現」のまちづくりに向け、人と人とのつながりづくりに取り組んでいる。今年度は、子ども向けのスポーツ大会やオンラインのプログラミング教室、「コレミテUBE」というホームページ上で店舗や事業者の紹介に取り組んでいる。



#### ●上田さん

- ・まちづくり活動の経験はないが、子どもが好きなので、そのような分野に関わりたい。

#### ●柴田さん

- ・まちづくりの課題には少子化問題のように国レベルでも解決が難しい問題が含まれる。そうした問題は、地域がその実情に基づき、皆が連携してアプローチすると解決できる可能性がある。地域は、課題解決に当たるためのいわば一つの単位とも考えられる。

#### ●脇さん

- ・まちづくりとは、全ての人がそれぞれの立場で関わっていくことができるものであり、様々な主体の連携を結ぶカギとなる。利他の精神を持つことが重要で、審議会では協議している宇部市の将来像にあえて「わたしたちのまち」という言葉を入れたのも、自分達がこのまちを変える、我が事であるということを表現したかった。サブタイトルに「共存同栄」という、宇部市創設時の言葉を使っているが、これは「共創」と同意である。



## 【テーマ② 10年後のまちのイメージについて】

### ●藤井さん

- ・若い人達がチャレンジするために市外に送り出してもらえ、いつでも市外から来た人を受け入れる環境であってほしい。また、行政には情報発信に力を入れてもらいたい。



### ●上田さん

- ・子育てがしやすいまち。地域の人々とのつながりがあり、子育てをする親を地域が支える環境ができているまち。

### ●柴田さん

- ・宇部市には、出生率に対して様々な良い環境があると考えられる。例えば、多様な産業があり、結婚して家を持てる可能性も高いようだ。ポテンシャルの高いまちだと思う

## 【テーマ③「みんなで創る」まちづくり（共創のまちづくり）に向けて】

### ●柴田さん

- ・共創のまちづくりのためには、目標の共有が大切である。そのときは、行政のリーダーシップも重要であり、SDGsのように、デザインを活用してわかりやすく目標を提示することが、市民・企業・行政との間の目標の共有という点から有効ではないか。

### ●上田さん

- ・子育て支援を宇部の強みにするとともに、災害が少ないという点も含めて、まちの魅力を皆が SNS 等で市外・県外に向けて発信する。そうすることにより、宇部市への人の流れを促す。



### ●藤井さん

- ・多様な方法でコミュニケーションをとりながら、取り残される人がいないまちとして、受け入れる側としてのマインド形成や仕組みを構築していくことが重要。これから10年かけて、徐々に変革させていくべき。

### ●脇さん

- ・総合計画の中でも、今後のまちづくりは「協働から共創へ」という考え方を、柱としている。共創は、市民や企業、団体、教育機関、行政など多様な主体が、最初の目標設定や企画の段階から連携し、一緒にスタートして取り組んでいく、これこそが「わたしたちのまちづくり」だと思う。
- ・宇部は、過去の歴史においても共創で成功している。宇部は産業の発展とともに、石炭使用量が増加し、「世界一灰の降るまち」と言われたが、産官学民の連携による「宇部方式」により、公害を克服した。緑と花と彫刻のまちづくりでも、その精神が生かされてきた。これから先も、この伝統の精神を大切にしていけば、宇部の100年後は更に良いまちになっていると思う。